

平素は工業会の活動にご理解とご協力賜り誠にありがとうございます。

夏の猛暑が終わり過ごしやすい季節となって参りました。食欲の秋、スポーツの秋、〇〇の秋とこの時期が長く続いてほしいと切に願う今日この頃ですが、会員の皆様はどのようにお過ごしでしょうか？

さて11月号では総務広報委員会主催の勉強会報告、第7回安全大会報告、ロンドンで開催されましたISO/TC300の国際会議報告、青年部会工場視察等をお届けさせていただきます。

《総務広報委員会 勉強会》

9月27日総務広報委員会主催の勉強会が開催されました。

場所：ブライトコア大崎 コベルコ建機

開会のご挨拶

三輪会長より開会に際してご挨拶を頂戴しました。

続きまして、今回の研修を企画されました総務広報委員会の加山委員長より会の趣旨、企画意図についてご挨拶頂きました。「単なる省人化に留まらず、生産性の向上や働き方改革、DXを活用した新たな展開をコベルコ建機様は構想されており、それを感じ取り、発展のきっかけにして頂きたい」



この度講師及び会場提供を頂きましたコベルコ建機株式会社新事業推進部、佐伯部長からご挨拶頂きました。

「兔に角楽しんで、体験頂いてご興味持って頂ければ幸いです」



その後、コベルコ建機様から「K-DIVE」のご説明を頂戴しました。

K-DIVE は人手不足の深刻化、熟練者に依存した現場判断や作業、危険が多い建設業という社会課題に対して開発された重機と DX をかけ合わせた、遠隔操作システムです。

これは省人化ソリューションでは無く、今存在する人材を有効活用するソリューションであることをご説明頂きました。例えば、重機オペと関連が低かった女性社員の活用や、現場から離れた場所に常駐する社員の活用などが可能になります。インターネットで接続されることにより、オペレーター事の操作結果や、重機のあらゆるデータが遠隔で管理する事も可能となります。今後は自動運転の開発も進められており、今後は人が不要になる可能性もあるとお話頂きました。

その後、参加した会員様が実際に K-DIVE を操作体験して頂きました。

実際に東京都品川 の場所から、藤沢と神戸に設置している重機を操作して体験致しました。



《第7回安全大会》

10月17日安全衛生委員会主催による第7回安全大会が開催されました。

場所：フクラシア品川クリスタル

綾仁理事の開会挨拶に始まり、下記内容にて実施いたしました。

1. 工場内安全パトロールの報告（高澤委員）

安全パトロールの目的として、会員企業を訪問し労働安全の取組で良いところを見つけ、他社への参考、労災事故防止、削減につながることを目的としている。

新潟市の株式会社不二産業様における安全衛生の取組を報告いただいた。

不二産業では「目に見える」安全衛生の取組として作業の安全十則と6S運動の徹底を実践されていた。（工場の至る箇所に掲示あり）また安全衛生協議会の活動、工場の安全への取組等の報告があった。抜き打ちでの安全パトロールの実施や日々のKY活動を通じて、安全への取組＝社員教育と考えている。「安全への取組に応用は無く基本を見つめ、教育を繰り返すのみである。」

2. 技能実習生への安全教育視察の報告（才原委員）

現在正会員77社中10社が技能実習生を受け入れ、総勢47名となっている。

豊川市の加山興業株式会社では3名の技能実習生がRPF製造、その他19名の技能実習生が機械保全、解体に携わっている。

加山興業の実習生の選考状況（現地で必ず面接）、安全衛生活動（日本語と母国語での表記、火災訓練）、日本語教育（日本語学習が安全への近道）、社員・地域とのふれあい（日本の文化・環境を知る）などの報告があった。加山興業ではお互いが寄り添うパートナーとして必要な存在に、実習生に素敵な技能実習期間を提供できる環境を創り出している。

3. 挟まれ・巻き込まれ災害に関する会員のアンケート調査結果発表（中田副委員長）

全業種における労働災害状況、挟まれ・巻き込まれ事故の傾向報告に続き、RPF製造における労働災害の具体的事例、ヒヤリハット事例報告があった。具体的な場所、作業内容、作業環境下においてどのような状態で事故があったのか？原因は？またその対策等かなり細かな報告があった。労災は「想定外」「不安全な状態」「不安全な行動」で起き、「教育」は必ず必要とまとめられた。



4. 健康経営優良法人認定制度の紹介（田中副委員長）

【健康経営とは】

従業員の健康保持・増進の取り組みが将来的に収益性などを高める投資であるとの考えのもと、健康管理を経営的な視点から考え戦略的に実施すること。

【健康経営優良法人認定制度とは】

健康課題に対して優れた取り組みを実践している企業を顕彰する制度のことで経産省が認定。健康を社員個人の問題ではなく、社員に対する企業の責任ととらえ、積極的に経営課題として取り組む考え方。

中小企業が認定を受けるメリットとして、採用、従業員の定着、安定した経営・対外 PR、企業のイメージ向上などがあげられる。



5. 安全衛生に関する VR 紹介（TOPPAN 株式会社 西日本事業本部 宮下英徳様）

2010年に安全教育を体感できる研修施設としてトッパン安全道場を2010年に設立。延べ5万人が受講され労災発生率が3割以上減少、外部企業に対しても600社以上の実績を持つ。

VRを用いることで自分ごととして事故や災害を体験できる。今回はVRとテレビモニターを接続することで被験者だけでなく、多くの参加者にも被験者と同じ体験ができた。



《ISO/TC300 国際会議》

「ISO/TC300 国際会議」に岡事務局長に参加頂きました。

(TC300 plenary 2023 in London)

令和5年9月19日(火)~22日(金)まで、ISO TC300の国際会議が英国ロンドンで開催され、日本RPF工業会事務局が参加しました。ご存知の通りISO14001/TC300は、廃棄物由来燃料の国際基準を決める参加34か国の会議で、2014にノルウェー国の発案で発起され、日本の環境省も参加、専門会員として、日本RPF工業会も参加メンバーとして登録されています。

今回は、ワーキンググループ(WG)での討議のほか、世界的なウイルス禍で中断されていた国際総合大会も開催され、各国の代表から進捗状況、質疑などの活発な意見が交換されました。その中で、如実に感じたことは、

- ① ヨーロッパ諸国の、廃棄物処理に関する基本的スタンスとして、「埋め立て」はもちろん「焼却処理」も極めてNegativeな行為として認識されていること。

- ② 廃棄物の成分分析と発生由来と分別工程などの総合的な評価で、日本の廃棄物は世界で一番の高度の品質であること。(廃棄物の含水率、回収頻度、処理工程など)
- ③ 欧米諸国の廃棄物由来燃料の火力、組成は日本の RDF の基準値以下であること。
- ④ 欧米では、日本の RPF に相当する(同等)廃棄物由来燃料は現状では存在しないこと。
- ⑤ 世界的な傾向、欧州では特に「ケミカルリサイクル」の動きと気運が急速に高まっていること。(ゴミからのガス化、資源化の研究、実務の実装プラントの準備)等です。

この問題は、推測するに近い将来、我が国におけるエネルギーリカバリーとしての、廃棄物由来燃料が、焼却行為として強くバッシングを受ける可能性があり、政府の国策としての廃棄物の資源化、マテリアル、ケミカルリサイクルの動きが一層加速すると思われます。また、ロンドンの市内では、EV 車が主流になりつつあり、自動運転の表示や街のいたるところに水素ステーションが見られます。今後我が国での水素の需要増加、炭素循環の国際的の変化に、どう業界として、対応していくのか、大きな課題を投げかけられた気持ちです。久しぶりに欧州から日本を見ることで、新しく考えさせられました。



《青年部会 工場視察》

日時：2023年10月3日(火)～10月4日(水) 主催：一般社団法人日本 RPF 工業会 青年部

見学場所：株式会社オガワエコノス新工場(サーキュラーエコノミー福山)他

懇親会場所：福山ニューキャッスルホテル(10月3日開催)

人数：36名

① 株式会社エコフィール (再生プラスチック)



平成 20 年に設立。家庭から回収された包装容器などを再生プラスチックのコンパウンドペレット加工を行っており物性・機能改質、着色などして用途に合わせて販売。また製造工程（産廃）で発生した、不良品やロス品をリペレット加工して再び原料として販売しており医療廃棄物用 BOX や OA フロアなどに再加工されているそうです。用途に合わせて破砕機など工夫されており無駄の出ない処理がなされていた。

② ㈱イーアールジャパン（再生プラスチック）

エディオンの 100% 子会社で家電リサイクルを行っている。「使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律」において、国から認定を受けている。回収した使用済み小型家電製品は、作業員の手作業や破砕機・選別機によって分解・破砕、分別され、金・銀・銅・レアメタルの元になるミックスメタル、鉄、アルミ、プラスチックなどの有用資源に再生されます。特に、小型家電に多く含まれるプラスチックをさらに PS・PP・ABS 等に分別することで、リサイクル率は高い。分別された資源は、金属商社や精錬工場などに販売する。手作業の部分は 35% を超える障害者雇用により行われていた。場内もきれいに清掃されて挨拶などの指導も行き届いており生き生きと仕事をこなしていたのが印象的でした。（場内撮影 NG）



③ 株式会社オガワエコノスサーキュラーエコノミー福山（RPF 製造）





年間約 6 万 t の RPF 製造が可能な国内最高峰の施設

従来の RPF 製造施設では、混合廃棄物は燃料化されることなく、埋立や焼却処理へと回されることが多いが、同施設では、混合廃棄物を手選別ラインと自動選別機が 2 台並ぶラインを導入することで、混合廃棄物を受け入れより早く高度な選別が可能であり原料の確保体制を整備していた。

広い場内も清掃が行き届いており動線が確保され作業の効率の高いものとなっていた。

※3 社の視察を終えて、マテリアルやケミカルなどリサイクルの様々な選択肢や混合廃棄物処理における高度選別の重要性また廃棄物業界における障害者雇用の可能性を各々で話し合う良い機会となりました。

懇親会はホテルニューキャッスルにて参加者 30 名で行われ会員同士の親睦を深めることができた。



今回の視察会を開催するにあたり、多方面でご協力をいただきました小川会長（オガワエコノス）小林幹事様（御池鉄工所）村上幹事様（アイケーシー）に感謝申し上げます。ありがとうございました。

《令和 5 年度資源循環技術・システム表彰》

持続可能な循環型社会の形成に資する先進的な事業の実践者として、一般社団法人産業環境管理協会資源・リサイクル推進センターよりエビス紙料株式会社が経済産業省産業技術環境局長賞を受賞されました。

トンネルコンポスト方式による可燃ごみリサイクルです。

詳細は下記 URL を参照ください。

<https://www.cjc.or.jp/news/topics/entry000243.html>

見澤社長コメント

この度は、『令和5年度 資源循環技術・システム表彰』におきまして『経済産業省 産業技術環境局長賞』という栄えある賞を賜り、心より感謝申し上げます。

私たちが受賞の栄誉に浴することができたのは、偏に、弊社事業に対しご理解、ご支援を賜ります様々な関係者の皆様の賜物でございます。

この場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

受賞させて頂きました「トンネルコンポスト方式」については約14年前に自社製作したテスト装置から始まりました。そこで研究開発していた技術が一つの町のごみ処理方式として採択され、6年間の施設稼働実績を経て、このような栄えある賞を頂いたことは実に感慨深いものがございます。

私たちの技術は日本国内に分散し、主には焼却処分されている含水率の高い『燃えるごみ』という一般廃棄物を石化燃料の代替エネルギー資源として産業界へ送り出すことができる技術でございます。

このような栄えある賞の名前に恥じぬよう、微力なりとも今後も様々な方々にご協力させて頂き、新たなリサイクル技術やスキーム開発に挑戦して参りたいと考えております。

有難うございました。



(文責；総務広報委員長 加山順一郎)

編集制作：総務広報委員会発行：一般社団法人日本RPF工業会

令和5年11月吉日

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町1-9-2 高梨ビル5階

TEL:03-6206-8000

FAX:03-5296-0303

<http://www.jrpf.gr.jp>